

18年度

「活動評価概要」示される



このほど、18年度に「ながの環境パートナーシップ会議」が取り組んできた活動に対して、活動評価委員会より活動評価が示され、厳しい評価と同時に力強い励ましをいただきました。

この委員会は、5名の委員により成り、「アジェンダ21ながの一環境行動計画」が、計画どおり実施されているかを評価・点検し、一層の発展に役立てる目的で、パートナーシップ会議の中に第三者機関として位置づけられているものです。評価概要は下記のとおりです。

～連携と継続は力 「環境は長野市」を目指して！！～

(1)実績

成果があがっているプロジェクトは、市民の森、食品トレイ削減・レジ袋削減、光害対策、水に親しめる川づくり、小中学校向けの環境マネジメントシステム導入、生ごみ削減のプロジェクトである。これらのプロジェクトでは、楽しさの共有による活性化、地道な活動の継続、若い世代との連携などにより活発な活動が維持・発展しており、市民と市の連携がこの成功を支えている。しかし、市民と市の連携、あるいは市民と市と事業者の連携がないプロジェクトについては、活動休止状態や活動自体を模索する状態になっている。

(2)課題

- ・「市民と市の連携（市の公約）」に関する課題として、市民と市の連携が一部機能していない。
- ・進捗管理に関する課題として、市民の活動成果を市の施策へ移行できていない点があげられる。レジ袋の有料化については市が導入の可否を政策判断する段階にあると思われる。
- ・実効性についての課題として、活動評価結果に対する回答や是正結果が見られない点があげられる。プロジェクトの実効性を高める意味で、市民と市がそれぞれ活動評価結果への対応結果（実績）を明確にする必要がある。

(3)期待

上述の(2)のとおり課題はあるものの、(1)のとおり成果があがっているプロジェクトがたくさんあり、平成18年度までの活動は概ね成功とみてよい。また、各プロジェクトと会議全体について活動の見直しが行われ、平成19年度からの活動目標が設定されており、今後の成果が期待される。特に、環境賞新設に見られるようにインセンティブ付与に切り込んだことは評価でき、各プロジェクトを有機的に発展させるうえでもこの賞への期待は大きい。

継続と連携は力である。市民と市、そして事業者が互いに協力しあう基本を大切に、「環境は長野市」の実現に向けてさらに連携を深めていただきたい。

新役員紹介

任期平成十九年六月
～二十一年五月

計画推進委員長

山口智子氏



市民・事業者・行政それぞれでは困難なことも、協力・協働で実現できる

ことが色々あると思います。それができる「ながの環境パートナーシップ会議」の輪を共に広げたいと思います。

計画推進副委員長(2名)

小山勝宏氏



いろいろ課題はありますが、本会議の潜在能力をフル活用して、環境ビジョン実現に取り組みたいです。

錦織広昌氏



私の所属する信州大学で培ってきた「環境マインド」を多くの市民の方々にも広げたいと思います。